

第4期

只見川電源流域振興計画

第2期

事業実施計画

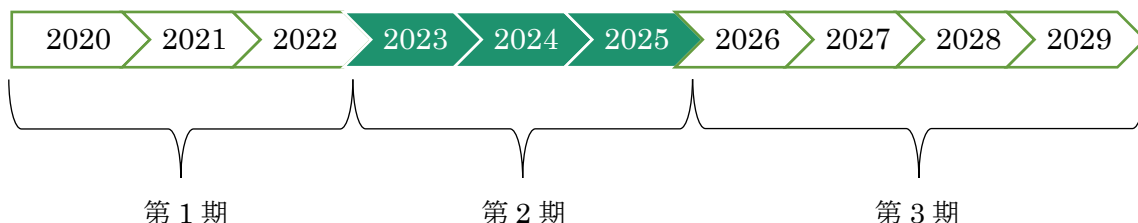
(2023-2025)

自然とともに暮らすいとなみ、100年先のみらいへ

只見川電源流域振興協議会

はじめに

第4期只見川電源流域振興計画（2020-2029年）（以下「総合計画」という。）に定められた基本施策の実現を目指し、第2期（2023-2025年）の事業実施計画を策定するものです。



【参考】計画の3期制

第1期	2020-22年（3年間）
第2期	2023-25年（3年間）
第3期	2026-29年（4年間）

※総合計画より抜粋

目次

1 第1期の振り返り	2
（1）奥会津らしさの整理・継承事業	2
（2）奥会津のブランディング推進事業	7
（3）地域内外との連携・交流の促進事業	12
（4）グローバルな人財の育成事業	15
（5）地域イノベーションの推進事業	17
（6）地域づくりとしての広域観光の推進事業	26
（7）二次交通体系の拡充事業	30
2 第2期の基本方針	32
3 第2期事業実施計画	34
（1）奥会津らしさの整理・継承事業	35
（2）奥会津のブランディング推進事業	37
（3）地域内外との連携・交流の促進事業	39
（4）グローバルな人財の育成事業	41
（5）地域イノベーションの推進事業	43
（6）地域づくりとしての広域観光の推進事業	45
（7）二次交通体系の拡充事業	46

1 第1期の振り返り

(1) 奥会津らしさの整理・継承事業

①奥会津地域文化情報紙の発行業務

目的	文化を起点とした観光や交流の創出、促進
取組概要	奥会津の各地域に残る伝統・風習の調査（集落調査）を実施しました。その取組結果の他、奥会津地域の文化や伝統工芸等を継承していくために活動している地域の方々の取組、地域内の文化施設に関する紹介を紙面で地域内外に発信しました。
実施状況	年間3～5回、約25,000部ずつ発行し、奥会津地域への全戸配布や県内道の駅等へ配布しました。 【令和2年度】3回発行 第1回：8月 第2回：12月 第3回：2月 【令和3年度】4回発行 第1回：8月 第2回：10月 第3回：12月 第4回：2月 【令和4年度】5回発行 第1回：6月 第2回：8月 第3回：9月 第4回：12月 第5回：2月  新・奥会津だより Flow Vol.1
成果指標	読者（個別郵送希望者）数 目標：50人 実績：70人
備考	新・奥会津だより Flow アーカイブ （本協議会ホームページ内） https://okuaizu.net/flowlist/

②奥会津 7 町村文化施設間連携事業

目的	地域の文化的価値の理解と交流人口の拡大										
取組概要	文化観光を目的に訪れる方々が、単独町村、施設ではなく複数の文化施設を巡る仕掛けを施すことによって、来訪者が地域全体を周遊する動きを生み出すことを目指す取組です。										
実施状況	令和 3 年度から協議開始し、令和 4 年度に奥会津地域内の 5 施設で共同テーマの写真展を開催しました。 【令和 3 年度】 会議 2 回 第 1 回： 1 2 月 昭和村 第 2 回： 2 月 オンライン 【令和 4 年度】 ①写真展開催 会期： 7 月 2 2 日～ 1 0 月 1 0 日 ※奥会津博物館は 8 月 3 1 日まで 会場： 金山町：東北電力奥会津水力館みお里 昭和村：交流・観光拠点施設喰丸小 只見町：ただみ・モノとくらしのミュージアム 南会津町：奥会津博物館 檜枝岐村：尾瀬写真美術館 ※柳津町、三島町は写真展未実施 ②記念講演会開催 第 1 回： 8 月 6 日 参加者数： 1 0 人 講師：飯沢耕太郎氏 第 2 回： 1 0 月 8 日 参加者数： 3 5 人 講師：久野俊彦氏、赤坂憲雄氏										
成果指標	文化施設連携アンケート記載者数 目標： 1 0 0 人 実績： 1 4 9 人 【内訳】 <table> <tr> <td>金山町：東北電力奥会津水力館みお里</td><td>4 0 人</td></tr> <tr> <td>昭和村：交流・観光拠点施設喰丸小</td><td>5 6 人</td></tr> <tr> <td>只見町：ただみ・モノとくらしのミュージアム</td><td>1 2 人</td></tr> <tr> <td>南会津町：奥会津博物館</td><td>2 8 人</td></tr> <tr> <td>檜枝岐村：尾瀬写真美術館</td><td>1 3 人</td></tr> </table>	金山町：東北電力奥会津水力館みお里	4 0 人	昭和村：交流・観光拠点施設喰丸小	5 6 人	只見町：ただみ・モノとくらしのミュージアム	1 2 人	南会津町：奥会津博物館	2 8 人	檜枝岐村：尾瀬写真美術館	1 3 人
金山町：東北電力奥会津水力館みお里	4 0 人										
昭和村：交流・観光拠点施設喰丸小	5 6 人										
只見町：ただみ・モノとくらしのミュージアム	1 2 人										
南会津町：奥会津博物館	2 8 人										
檜枝岐村：尾瀬写真美術館	1 3 人										

③奥会津ミュージアム事業

目的	奥会津らしさを次世代、100年先に繋ぐ
取組概要	自然と呼吸を合わせた暮らしぶりが今なお色濃く残る奥会津の地域全体を施設を持たないエコミュージアムとして捉え、文化施設連携事業及びデジタルアーカイブ事業と密接に交わりながら、奥会津地域の文化価値を地域内外へ発信し、地域内での文化継承を図る試みです。
実施状況	令和3年度から元福島県立博物館長の赤坂憲雄氏をはじめ、奥会津地域の文化施設関係者達と協議を開始し、令和4年度9月に本構想を公表し、WEBサイトを立ち上げました。 【令和3年度】 本事業を含む奥会津らしさの整理・継承事業全般において、赤坂憲雄氏へ全体統括を依頼しました。 【令和4年度】 赤坂憲雄氏へ奥会津ミュージアム館長を委嘱し、奥会津地域を施設を持たないエコミュージアムとして見立て、ありのままの生活文化を発信する「奥会津ミュージアム構想」を公表。2月に奥会津地域にゆかりのあるライター11名のコラムを掲載するWEBサイトを公開しました。  奥会津ミュージアム WEB サイト トップ画面
成果指標	奥会津ミュージアムWEBサイトの運用 目標：運用開始 実績：令和5年2月運用開始

④デジタルアーカイブの構築業務

目的	奥会津のあらゆる文化を保存し、未来へ繋ぐ
取組概要	奥会津地域の文化資料をWEBサイト上に保存するデジタルアーカイブを構築し、これを活用することで文化情報を未来へ繋ぐ取組です。
実施状況	主に奥会津地域の文化施設関係者と令和2年度からの運用について協議を重ね、現在の進捗は試験的な運用段階です。公開は3月中旬を予定しています。 【令和2年度】会議5回 第1回： 9月 柳津町 第2回： 10月 三島町 第3回： 11月 昭和村 第4回： 12月 只見町 第5回： 2月 オンライン 【令和3年度】 システムの試行と奥会津地域内の文化施設関係者によるテスト入力を実施しました。 【令和4年度】 令和3年度に引き続きテスト入力を継続。システム面での仕様が固まったため、本入力を開始。 3月中旬の公開に向けて調整中です。
成果指標	デジタルアーカイブ専用WEBサイトの運用 目標：運用開始 実績：令和5年3月運用開始予定

奥会津らしさの整理・継承事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
奥会津地域の文化情報紙の発行業務	○	○	○
奥会津 7 町村文化施設間連携事業		○	○
奥会津ミュージアム事業		○	○
デジタルアーカイブの構築	○	○	○

第 1 期では奥会津ミュージアム、デジタルアーカイブ、文化施設間連携といった取組の基礎を構築し、運用開始しました。奥会津地域は古くから伝わる自然と呼吸を合わせた暮らし、文化が色濃く残る地域ですが、高齢化や人口減少が進むことで受け継がれてきた貴重な文化が消失する危険性が高まっています。

また、奥会津ミュージアムWEBサイトという新しい情報媒体が生まれたことから、より効果的に情報をお届けしていくために、今後の文化情報発信の方向性を見直す必要があると考えられます。

これらを踏まえ、第 2 期では奥会津ミュージアム専用WEBサイト、デジタルアーカイブ専用WEBサイトを運用しながら必要に応じた機能拡大を行っていきます。

また、奥会津 7 町村文化施設間連携事業を展開しながらより良い仕組みを構築していくなど、第 1 期で構築した各取組の基盤を固めつつ発展的に展開することで、「奥会津らしさ」を単に保存するだけでなく、磨き上げながら活用することで文化を継承していくことを目指します。

(2) 奥会津のブランディング推進事業

① 歳時記の郷・奥会津ホームページ管理業務

目的	本協議会及び事業内容の認知度向上
取組概要	令和2年度にそれまでの観光ポータルサイト形式を改め、本協議会の事業方針、内容がわかる理念型のホームページへ再構築しました。
実施状況	本協議会の事業内容の他、構成7町村のイベント情報を掲載し、幅広い情報発信を行いました。 【令和2年度】 観光ポータルサイト形式であった本協議会ホームページを、「100年先」を見据えて奥会津7町村という広域で取り組んでいく事業の内容や進捗紹介に主眼を置いたものに切り替えました。 【令和3年度】 令和2年度に構築した新しいホームページを運用し、閲覧者の属性や数を調査。その結果から、機能拡大の必要性を見出しました。 【令和4年度】 前年度に把握した諸問題の解決のため、通常運用しつつも機能拡大を行い、これまで掲載しにくかった情報を掲載できるようにしました。
成果指標	新ホームページ閲覧数（令和3～4年度分） 目標：30,000件 実績：25,000件（令和5年1月時点）  新ホームページ令和3～4年の閲覧者数
備考	歳時記の郷・奥会津ホームページ https://okuaizu.net/

②事業紹介パンフレットの発行業務

目的	本協議会及び事業内容の認知度向上
取組概要	住民参加型の事業が多い本協議会事業の内容を紹介するパンフレットを作成しました。
実施状況	7町村へ全戸配布の他、事業説明に活用しています。 【令和2年度】 奥会津地域の地域住民の方々に向けて、下記3点を分かりやすく記載したリーフレットを作成し配布しました。 ・地域の課題と現状、それに対して総合計画においてどのような地域の将来像を描いているのか。 ・計画における目標を達成するために本協議会はどのような事業を地域と共に展開していくのか。 ・本協議会が行う事業に地域住民の方々はどう関わっていくのか。どのように参加できるのか。  作成したパンフレット
成果指標	地域住民の本協議会の認知度 目標：70% 実績：33%

③奥会津地域及び協議会事業の紹介動画の作成業務

目的	本協議会及び事業内容の認知度向上
取組概要	奥会津の地域性及び協議会事業を紹介する動画の作成し、配信しました。
実施状況	YOUTUBEの協議会アカウントにて公開中の他、催事開催時に活用しています。 【令和3年度】 令和3年10月～1月に開催した本協議会事業「奥会津体験博覧会せど森の宴」にて記録した映像を活かして、単なる事業紹介ではなく、奥会津地域の文化、自然の豊かさやここに暮らす人々の精神性を伝えることができる動画を作成しました。  作成した動画の内容（一部）
成果指標	動画再生回数 目標：1,000回 実績：1,977回（令和5年1月時点）
備考	対象動画 https://www.youtube.com/watch?v=g3Llnera174

④生産者紹介ツールの作成業務

目的	奥会津の地域産品や生産者の認知度、ブランド力向上
取組概要	奥会津の地域産品の生産者・事業者情報が伝わる資料を作成しました。
実施状況	催事出店の際に活用しています。 【令和3年度】 催事代行の販売実績より、商品が生まれた背景や作り手の顔、美味しく食べる方法などがわかりやすく記載してある商品の売れ行きが良いことを学び、販売促進を目的として本資料を作成しました。   作成した資料の内容（一部）
成果指標	催事売上額 目標：10,000,000円 実績：7,668,245円

⑤地域産品PRキャンペーン実施業務

目的	日常的に福島を訪れている顧客層の奥会津認知度の向上
取組概要	福島空港の大阪⇄福島便搭乗客へ向けた奥会津地域産品のプレゼントキャンペーンを実施しました。
実施状況	下記地域産品のプレゼントキャンペーンを実施しました。 地域産品：米焼酎ねっか、金山町天然炭酸の水、会津地鶏おつまみ缶詰 2 種 配布数：400 期間：令和3年1月11日～2月28日 【令和2年度】 新型コロナウイルスで直接出向いてのPRができない状況及び福島空港の大阪⇄福島便にビジネス利用のリピーターが多いことから、福島県商工労働部観光交流局空港交流課と協議を重ね、同便搭乗客へのプレゼントキャンペーンを実施しました。奥会津地域の認知度を高め、新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなってきたからの来訪客増加を目指しました。 作成した広告
成果指標	福島空港利用者の奥会津認知度 目標：30% 実績：15%

奥会津のブランディング推進事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
歳時記の郷・奥会津ホームページ管理業務	○	○	○
事業紹介パンフレットの発行業務	○		
奥会津地域及び協議会事業の紹介動画の作成業務		○	
生産者紹介ツールの作成業務		○	
地域産品 P R キャンペーン実施業務	○		

第1期ではそれまでの観光ポータルサイト型から理念型へ歳時記の郷・奥会津ホームページを再構築し、総合計画の基本理念「自然のなかに暮らすいとなみ、100年先のみらいへ」の実現に向けた本協議会事業の内容紹介に重点を置きました。これは、平成23年7月の新潟・福島豪雨からの復興を第一に掲げた観光施策重視の方針から、第4期只見川電源流域振興計画への切り替えを機に地力を育む地域づくりを行っていく方針に切り替えたことによるものです。

また、これに加え事業紹介パンフレットや動画、生産者紹介ツールの作成など、情報の見える化に注力しました。

第2期ではこれらを活かしながら、各町村の広報活動と連動した新たな取り組みの実施により、地域内外における本協議会の認知度向上、地域住民の事業参加促進に繋げていくことを目指します。

(3) 地域内外との連携・交流の促進事業

奥会津体験博覧会せど森の宴企画運営業務

目的	交流人口の拡大、地域の価値の顕在化によるシビックプライドの形成
取組概要	地域の潜在的な価値を住民自らが体験コンテンツ化し、一定期間に集中開催する「せど森の宴」を開催しました。 また、運営を行政から民間へ移行し、将来的な本事業の自走化を目指しました。
実施状況	【令和2年度】 プログラム数：10件 開催実績：2件（いずれもオンラインのみ） 参加者数：54名 新型コロナウイルスにより、開催準備していた対面型のプログラムがほぼ開催できませんでした。 【令和3年度】 プログラム数：17件 開催実績：15件 参加者数：100名 【令和4年度】 プログラム数：36件 開催実績：32件 参加者数：210名 事務局機能を奥会津地域内の民間団体に委託し、地域一体で運営体制を構築しました。  せど森の宴メインイメージ
成果指標	せど森の宴プログラム数 目標：延べ50件 実績：延べ63件
備考	予約WEBサイト「奥会津体験博覧会せど森の宴」 https://okuaizu.info/

地域内外との連携・交流の促進事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
奥会津体験博覧会せど森の宴企画運営業務	○	○	○

第1期では事業の立ち上げから奥会津地域ならではの運営体制構築まで実施しました。本事業は単なる観光事業ではなく、奥会津の地域資源を改めて見出し、磨き上げ、価値として提供及び情報発信することで奥会津地域のブランド力向上、地域住民の地元愛の形成を目指す事ができる事業です。地域づくりの良い手段である本事業は第2期以降も継続実施していくことで、更に効果を発揮することが期待できます。

第2期では、令和4年度に構築した運営体制の強化を目指し、事業実施する中で協議を重ねることで、奥会津の地域特性を踏まえた新たな体制を構築し、更なる事業効果の向上を目指します。

(4) グローカルな人財の育成事業

奥会津地域プライド養成事業

目的	奥会津で将来にわたり活躍していく人財の確保・育成
取組概要	奥会津地域で活躍する若者を中心としたロールモデルインタビュー動画を作成しました。これらを掲載する専用のWEBサイトを構築し、作成動画を公開中です。 また、奥会津地域の中高生を対象とした愛着度調査を実施しました。
実施状況	【令和2年度】 インタビュー対象者：6名 【令和3年度】 インタビュー対象者：8名 専用WEBサイト「おくびと～奥会津に生きる人々～」を構築し、公開しました。 【令和4年度】 インタビュー対象者：15名 これまで取材した内容を掲載した情報誌を作成しました。 愛着度調査 各町村の中学校、高校と連携し、生徒に個別アンケートを実施しました。奥会津地域における地元愛着度は全国平均値や本分野における先進地である島根県の平均値よりも高い数値を記録するなど、想定以上の良い結果が出ました。 この結果は調査に協力いただいた各学校に共有し、今後の事業展開に活かす事としました。
成果指標	ロールモデル動画閲覧者数 目標：5,000件 実績：7,753件
備考	専用WEBサイト 「おくびと～奥会津に生きる人々～」 https://okubito.info/

グローバルな人財の育成事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
奥会津地域プライド養成事業	○	○	○

第1期では奥会津地域で自分らしくイキイキと活動されている若者達のインタビュー記録を残しました。

また、これらをWEB上で発信する環境を整えました。今後の奥会津を担っていく子ども達、若者達の良い指標となるこの記録は、活用することでその真価を発揮すると考えられます。

これを踏まえ第2期では、引き続きインタビューを実施していくことに加え、奥会津地域内の各教育機関と連携し、協議を重ねながら効果的な活用方法を見出し、実践していくことが必要だと考えられます。

(5) 地域イノベーションの推進事業

①奥会津イノベーション創出事業

目的	奥会津地域ならではの魅力の磨き上げ
取組概要	上記目的達成のためには「単なる旅行者ではなく、集落の一員になったかのような体験・滞在」が出来ることが理想的であると仮説を立て、検証しました。
実施状況	【令和2年度】 山の暮らしに着目し、来訪者に対してどのような滞在コンテンツが提供できるか協議を重ね、「奥会津の山の暮らし体験」をテーマとしたモニターツアーを実施し、コンテンツとして成り立つか実証実験を実施しました。 【令和3年度】 本事業は性質的に誘客ありきであったものの、新型コロナウイルスの影響から積極的な誘客を行えなくなり、事業実施を断念しました。  実施したモニターツアーの様子
成果指標	磨き上げたこの地域ならではの魅力 目標：5件 実績：0件

②奥会津連携商品開発及び販売促進業務

目的	事業者同士の連携構築による販売力の向上
取組概要	生産者・事業者同士が連携することを条件とした商品開発案の募集及び開発支援を行いました。
実施状況	【令和２年度】 商 品 名：ねっかに合う会津地鶏おつまみ缶詰 申請事業者：有限会社会津地鶏みしまや（三島町） 連携事業者：合同会社ねっか（只見町） 商 品 名：んめえがなピザ 申請事業者：ティールームやまねこ（柳津町） 連携事業者：青木農園（昭和村） 渡部麴屋（金山町） 【令和３年度】 商 品 名：ねっかに合う会津地鶏やきとり缶詰 申請事業者：ヤマサ商店（只見町） 連携事業者：合同会社ねっか（只見町） 商 品 名：じゅうねん味噌巻き 申請事業者：株式会社げんき村（只見町） 連携事業者：Snow Dance（昭和村） 【令和４年度】 商 品 名：花泉ロ万ドレッシング 申請事業者：Snow Dance（昭和村） 連携事業者：株式会社花泉酒造（南会津町） 商 品 名：会津地鶏のスパイスカレー 申請事業者：有限会社会津地鶏みしまや（三島町） 連携事業者：ムラカミカレー（只見町）
成果指標	開発商品の売上額 目標：６，０００，０００円 実績：４，２０８，５００円

③各種催事開催

目的	奥会津の認知度向上及び地域経済の活性化
取組概要	奥会津の地域産品を販売する催事を開催しました。
実施状況	【令和３年度】 催事名：奥会津んめえ！すんげえ！まるっと市 in 小名浜 場 所：いわき・ら・ら・ミュウ（いわき市） 期 間：１月２２日～２３日 事業者：１０ 売上額：７１１,１９０円 催事名：奥会津んめえ！すんげえ！まるっと市 in 小名浜 場 所：イオンモールいわき小名浜（いわき市） 期 間：２月５日～１３日 事業者：６ 売上額：１,１２５,５９６円 催事名：奥会津んめえ！すんげえ！まるっと市 in 福島 場 所：福島県観光物産館（福島市） 期 間：３月２５日～２６日 事業者：１１ 売上額：７５３,５４２円 【令和４年度】 催事名：奥会津クラフトマルシェ in あゆむC a f e 場 所：スマートシティA i C T交流棟 （会津若松市） 期 間：４月２３日～２４日 事業者：６ 売上額：９２４,１００円 催事名：奥会津んめえ！すんげえ！まるっと市 in 東京交通会館 場 所：東京交通会館（東京都） 期 間：９月８日～１２日 事業者：７ 売上額：５４０,３７０円

実施状況	催事名：奥会津クラフトマルシェ in あゆむC a f e 場 所：スマートシティA i C T交流棟 （会津若松市） 期 間：1 0 月 2 9 日～3 0 日 事業者：9 売上額：5 9 4, 0 0 0 円
	催事名：奥会津クラフトマルシェ in きとね 場 所：きとね（南会津町） 期 間：1 1 月 2 6 日 事業者：7 売上額：2 9 7, 1 0 0 円
	催事名：奥会津クラフトマルシェ in 新潟 場 所：新潟日報メディアシップ（新潟市） 期 間：1 月 2 7 日～2 9 日 事業者：7 売上額：3 9 8, 5 8 0 円
	催事名：奥会津んめえ！すんげえ！まるっと市 in 福島 場 所：福島県観光物産館（福島市） 期 間：2 月 3 日～4 日 事業者：8 売上額：4 2 0, 1 8 0 円
成果指標	催事売上額 目標：1 0, 0 0 0, 0 0 0 円 実績： 7, 6 6 8, 2 4 5 円（参加催事分含）

④地域産品販売促進業務

目的	地域経済の活性化及び事業者同士の連携促進
取組概要	この地域ならではの地域経済の活性化を目指す上で事業者同士の連携をどう生み出すかに焦点を当てた協議を実施しました。（参加者：地域内の事業者）
実施状況	【令和4年度】 これからの奥会津の未来を地域産品から考える会 日 程：11月14日 会 場：三島町町民センター（三島町） 参加者数：27名  会の様子 奥会津地域内で地域資源を活かしたビジネスで成功している事業者視察ツアー 日 程：12月6日 視 察 先：①合同会社ねっか（只見町） ②Mastro Geppetto（南会津町） 参加者数：6名   合同会社ねっか Mastro Geppetto（工場） 上記取り組みを踏まえた、奥会津の未来検討会 日 程：1月24日 参加者数：8名
成果指標	本事業の取り組み参加者数 目標：30人（延べ） 実績：41人（延べ）

⑤奥会津可能性拡大事業

目的	奥会津一体の地域づくりの実現
取組概要	主に行政職員を対象とし、奥会津地域の今後の地域づくりに繋がると思われる優良事例を持つ講師を選出し、主にオンラインにて勉強会を開催しました。 また、地域一体の地域づくりの促進を目指し、参加者皆で奥会津の理想の未来を描く「奥会津未来会議」の始動に向け、プレ開催等を通して準備を進めました。
実施状況	【令和2年度】 「百年の森林構想」から「生きるを楽しむ」へ だれひとり取り残さない地方創生の取組 講 師：西栗倉村役場 地方創生推進室長 上山隆浩氏 開催日：1月29日 参加者数：12名 シビックプライドと奥会津らしさを考える 紫牟田伸子氏×奥会津地域で活躍する若者による オンラインセッション 講 師：Future Research Institute 代表取締役 紫牟田伸子氏 開催日：2月11日 参加者数：25名 石川県七尾市から見る“能登の人事部”の可能性 講 師：株式会社御祓川 代表取締役社長 森山奈美氏 民間まちづくり会社による地域の人材マネジメント 開催日：2月19日 参加者数：20名 島根県雲南市から見る“幸雲南塾”の可能性 講 師：NPO 法人おっちラボ 代表理事 小俣健三郎氏 開催日：2月26日 参加者数：13名

実施状況

宮城県気仙沼市から見る“ぬま大学”の可能性

講師：一般社団法人まるオフィス

理事 小林峻氏

開催日：3月5日 参加者数：15名

【令和3年度】

おんぱく先進地・長良川の事例から考える観光地域
づくりの可能性

講師：NPO法人ORGAN

代表理事 蒲勇介氏

開催日：2月7日 参加者数：53名

西栗倉村・釜石市の事例から考える多様な地域おこ
し協力隊の可能性

講師：西栗倉村役場

地方創生推進室長 上山隆浩氏

釜石市移住定住相談センター

主事 藤井雄聖氏

開催日：2月17日 参加者数：56名

阿賀町・福島市の事例から考える未来を拓く次世代
育成の可能性”

講師：余白デザイナー 西田卓司氏

一般社団法人 Bridge for Fukushima

代表理事 伴場賢一氏

開催日：2月19日 参加者数：42名

【令和4年度】

のと未来会議の事例から考える地域共創の可能性

講師：能登町役場ふるさと振興課地域戦略推進室

主幹 灰谷貴光氏

開催日：2月7日 参加者数：9名

実施状況	ふるさと回帰支援センター副事務局長と考える 地方移住と協力隊制度の可能性 講 師：NPO法人ふるさと回帰支援センター 副事務局長 稲垣文彦氏 開 催 日：2月13日 参加者数：15名 開催場所：季の郷湯ら里（只見町） 若手官僚たちと考える 根拠に基づく政策立案の可能性 講 師：財務省／TGP（Team Good Policy） 渡邊慧氏 開催日：2月20日 参加者数：19名 奥会津なじょすっぺ会議 開 催 日：2月13日 参加者数：14名 開催場所：季の郷湯ら里（只見町）
成果指標	本事業の取り組み参加者数 目標：210人（延べ） 実績：293人（延べ）

地域イノベーションの推進事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
奥会津イノベーション創出事業	○		
奥会津連携商品開発及び販売促進業務	○	○	○
催事開催	○	○	○
地域産品販売促進業務			○
奥会津可能性拡大事業	○	○	○

第1期では新型コロナウイルスの影響を多く受け、多くの事業が方針転換せざるを得ない状況でした。特に直接対面となる催事や誘客事業が実施困難になりましたが、その分既存事業の見直しや地域内の魅力の磨き上げ、未来を見据えた協議や連携体制の構築に時間を費やすことが出来ました。その結果、これまでとは異なる手工芸品に限った催事「奥会津クラフトマルシェ」を発足させ、奥会津地域ならではの手仕事文化を広く発信することが出来ました。

第2期においても、奥会津の地域特性を捉えた事業者間連携の在り方を模索していく協議を継続し、より効果的に販売及びPRを実施できる体制の構築を目指します。

また、奥会津可能性拡大事業においては、これまで主に行政職員を対象とした講習会を実施してきたことを踏まえ、対象を一般住民の皆さんも含めた形に広げ、より多角的な意見が出る環境の中で地域一体で地域づくりを進めていく機運を醸成します。

(6) 地域づくりとしての広域観光推進事業

①奥会津地域での観光分野における連携組織（奥会津DMO）形成の在り方検討業務

目的	行政、民間、地域の経済循環を生み出す中間事業者の創出
取組概要	令和2年度以前から令和3年度のDMO設立を目指し、設立準備会、ワーキンググループを開催してきたところでしたが、新型コロナウイルスの影響により観光客の動向に大きな変化が見られたこと、令和元年4月からDMOの登録要件が厳格化されたことを受け、ワーキンググループにおいて引き続き奥会津における広域地域づくりの必要性和、求められる組織体についての検討を行いました。
実施状況	【令和2年度】 第1回ワーキンググループ 日付：1月15日 参加対象：幹事 観光協会事務局長 第2回ワーキンググループ 日付：2月10日 参加対象：幹事 観光協会事務局長
成果指標	協議によってDMOが発足できたか 目標：発足 実績：発足できなかった
備考	DMO発足には至りませんでしたが、この後も協議を継続することで奥会津の地域特性を踏まえた連携体制の在り方を模索することとしました。

②奥会津地域における広域連携地域づくり推進事業

目的	観光に携わる職員の地域全体に対する共通理解を創出及びこれに伴う連携体制の構築
取組概要	令和２年度までの協議を踏まえ、広域連携地域づくり検討会議やワークショップの開催し、広域連携の土台作りを進めました。まずはできることから連携するという方針のもと、具体的・実践的な取組み分野を選定し、実証事業の実施と、将来を見据えた改善協議を継続的に行いました。 参加者：７町村の観光担当職員、観光協会職員
実施状況	【令和３年度】 ７町村及び観光協会へのアンケート調査（２回） 課題、実態把握から連携すべき分野を抽出し、取りまとめ後に個別ヒアリングを実施しました。 広域地域づくり検討会議（５回） 協議の結果、下記のテーマを優先的に取り組んでいくこととしました。 ①観光協会の職員交流による情報共有 ②インバウンド窓口の一本化 ③レンタサイクルの有効活用 ④地域内の生産者と観光関連事業者のマッチング 【令和４年度】 引き続き協議を重ねつつ（２回）、上記テーマ①を重点的に実施しました。ＳＮＳを利用した情報共有、実際に他町村の観光資源を学ぶ現地勉強会を金山町にて実施しました。
成果指標	広域での取り組みが生まれた件数 目標：３件 実績：２件
備考	実績詳細 ① Ｇｏｏｇｌｅカレンダー、ＬＩＮＥで各町村取り組みの共有 ② 東北電力会津若松支社への奥会津製品の販売

③奥会津の旅増刷業務

目的	誘客数の増加による交流人口の拡大
取組概要	既存の奥会津7町村の観光情報をまとめた冊子を必要に応じて掲載内容を更新し、増刷しました。  奥会津の旅
成果指標	冊子配布数 目標：9万部 実績：10万5千部
備考	令和4年度は特に冊子のハケが良く一時欠品状態となりました。只見線全線再開の影響と思われます。このため、例年3万部ペースで増刷していたところ同年度は5万5千部増刷しました。

地域づくりとしての広域観光推進事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
奥会津地域での観光分野における連携組織（奥会津DMO）形成の在り方検討業務	○		
奥会津地域における広域連携地域づくり推進事業		○	○
奥会津の旅増刷業務	○	○	○

第1期では新型コロナウイルスの流行、DMO設立要件の厳格化を契機に、それまで継続してきた奥会津DMO設立を見直すこととなりました。組織の在り方にはこだわらず、奥会津の地域特性を踏まえた広域連携体制の構築を目指し、現在も協議を進めているところです。まずはできるところから着手するという考えにより、観光協会職員同士の連携促進をSNSを利用した情報共有や、金山町の現地視察から始めました。

第2期ではこの協議を発展的に継続できるよう、金山町以外の町村の現地視察を進めることで更なる情報共有を図り、この他の連携事項を掘り起こしながら、広域連携に関与すると思われる様々な取り組みに積極的にチャレンジしていくことが求められると考えられます。

(7) 二次交通体系の拡充事業

二次交通体系の検討事業

目的	奥会津地域内における相互交流の機会の創出、促進
取組概要	構成7町村の公共交通関係担当者を中心とした会議体を発足させ継続的に協議を重ねました。
実施状況	【令和3年度】 奥会津7町村の現状の交通事情を把握するため、各町村の公共交通運行状況、住民の利用状況をアンケートにより調査し、会議（2回）にてその結果を共有しました。 住民アンケート詳細 配布票数：4,876票 回収票数：1,055票 回収率：22%程度 【令和4年度】 各町村の公共交通事情の調査を個別ヒアリング等で深掘りし、奥会津地域にマッチした地域内の交流創出を目的とする実証事業について協議を重ねました。（3回） また、GTF S勉強会においてGoogleなどの経路検索に公共交通情報を掲載する方法を学びました。
成果指標	実施した住民アンケート回答数 目標：735票 実績：1,055票

二次交通体系の拡充事業のまとめ

小事業名	実施年度		
	R 2	R 3	R 4
二次交通体系の検討事業		○	○

第1期では各町村の既存公共交通の路線、運行状況、住民の利用状況のデータを集め、7町村の交通事情の実態把握を行いました。

また、これに併せて今後地域内外の交流促進を促すためには交通面からこういったアプローチが適しているか各町村の公共交通担当者と協議を重ねることで検討しました。

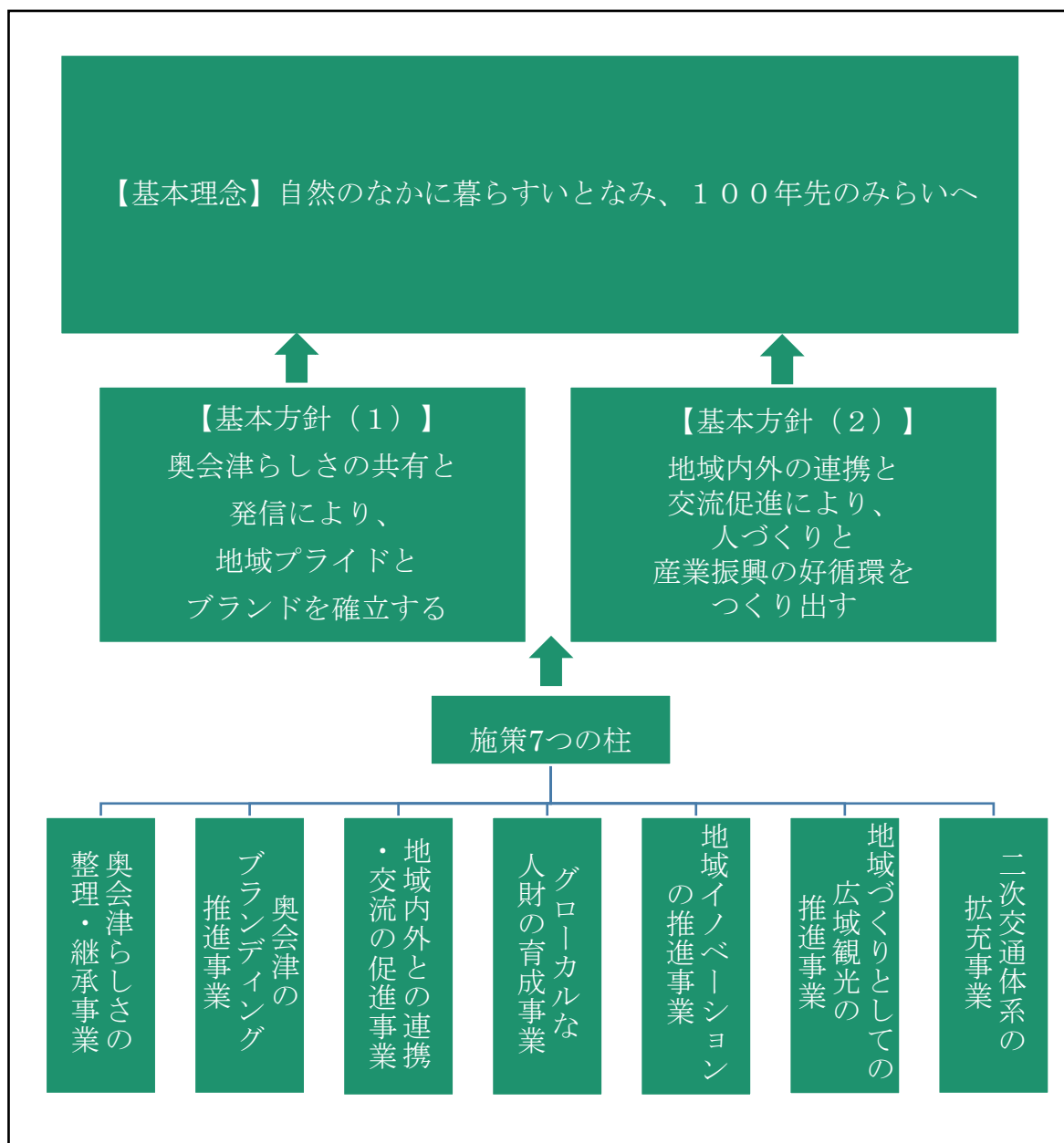
第2期ではこの協議結果を踏まえ、実証実験の実施及び広域的な二次交通体系拡充計画の策定が必要であると考えられます。

2 第2期の基本方針

奥会津地域の振興を目的とした事業を展開していく基本方針として、下記を掲げます。

- (1) 奥会津らしさの共有と発信により、地域プライドとブランドを確立する
- (2) 地域内外の連携と交流促進により、人づくりと産業振興の好循環をつくり出す

※総合計画より抜粋



(1) 奥会津らしさの共有と発信により、地域プライドとブランドを確立する

地域プライド、ブランドを確立するためには、刻々と変わる時代の変化や価値観の変容を把握しつつも、地域の本質的な価値やあり方を「その地域らしさ」という主軸として捉え、磨き上げながら時代に合わせて情報発信及び活用していく必要があります。

このため、第1期に立ち上げた「奥会津ミュージアム事業」により、奥会津地域のありのままの暮らしぶりの中にある古くから脈々と受け継がれてきた数々の文化を「奥会津らしさ」として整理し、その共有と発信、活用を通じてこの地域の本質を次世代へと繋いでいきます。これらの積み重ねにより、地域プライド、ブランドの確立を目指します。

(2) 地域内外の連携と交流促進により、人づくりと産業振興の好循環をつくり出す

少子高齢化と人口減少の進展により既存の仕組みでは奥会津の様々な課題へ対応することが困難になっていくなか、継続的に地域の振興を進めていくためには、地域で活躍する人財の確保、育成と地域経済の活性化が必要不可欠です。

このため、第1期に立ち上げた地域住民の皆さんが主役となって身近にある資源を活かした体験を提供する「奥会津体験博覧会せど森の宴」、奥会津地域で活躍している若者をロールモデルとして取材し、その人らしい生き方を発信する「おくびと～奥会津に生きる人々～」といった、地域住民ひとりひとりが主役となって地域内外へ奥会津地域の魅力を発信する事業、または地域の将来を担う子ども達の育成に繋げる事業をより発展的に展開することに合わせ、「二次交通体系の拡充事業」で地域内の交流促進に繋がる交通手段の拡充を進めることで、地域内外の交流及び人づくりをより促進します。

また、産業振興分野ではこの地域ならではの事業者連携の在り方の模索を進めることで、奥会津の地域特性を活かした連携体制の構築を目指し、経済の活性化へ繋がります。

3 第2期事業実施計画

総合計画に基づき、7つの施策について下記の内容を参照の上立案します。

項目（着眼点）	記載する内容例
現状把握	リサーチと客観的なデータの分析
仮説、ターゲット	原因探求/仮説とターゲット設定
戦略	戦略の設定/計画との整合性、事業間の連動性のチェック
事業内容	具体的な実施の内容（対象、意図、期間、予算、連携相手）
検証方法	ヒアリング/アンケート/K P I 等の参照

(1) 奥会津らしさの整理・継承事業

【現状把握】

奥会津の伝統技術や生活循環は、高齢化の進展と人口流出により、その継承や資料散逸の危機に瀕しています。地域の生活文化や自然、人々の生き様など、古来より継承されてきた地域の宝や新たな文化価値のあるものを、地域内外へ発信する機会が少ないと思われます。

【仮説、ターゲット】

奥会津ミュージアムWEBサイトという新しい情報媒体が生まれたことから、文化に興味がある有識者はもちろんのこと、潜在的興味を持つ人々へも事業効果を波及させることでこの地域の文化の継承を図る必要があると考えます。

【戦略】

本事業では、奥会津らしさの整理・継承事業全般において全体統括を委嘱した奥会津ミュージアム館長赤坂憲雄氏の助言のもと、文化事業3つを双方向に連動させながら一体的な展開を目指します。

【事業内容】

①奥会津7町村文化施設間連携事業

学芸員や文化担当者が広域で連携し、毎年共通のテーマで文化施設活用した企画展を開催することで、奥会津地域のありのままの地域性や文化に触れてもらう機会を創出します。

②奥会津デジタルアーカイブの運用

文化財や歴史資料、伝統芸能などをデジタル上にアーカイブとして公開し、地域内外の人々がよりリアルに地域文化に触れるきっかけとなる情報発信を行います。

③奥会津ミュージアムWEB版の運用

奥会津ゆかりのライターによるコラムをWEBサイトに掲載します。ライターによって様々な切り口から紡がれた、「ここで暮らす人々の息遣いが聞こえるような文章」をとりまとめ、地域内外の人々がより生きた奥会津に触れるきっかけとすることを目指します。

【検証方法】

下記のK P I をもとに事業評価を行います。

・企画展開催による文化施設への来場者数	1 5, 0 0 0 名
・各種文化資料の整理、アーカイブへの収蔵点数	1, 0 0 0 点
・奥会津ミュージアムW E B 版へのコラム掲載数	2 2 0 件

(2) 奥会津のブランディング推進事業

【現状把握】

奥会津の地域振興をより効果的に進めるためには、内容が多岐に渡る各事業の方向性を束ねることによる「一体的な事業展開」、「検証による事業見直し」が必要です。これに加え、事業内容の発信によって地域住民や構成町村役場の本協議会事業に対する認知度・理解度を高めることが重要だと考えます。

一方で、本協議会事業については、せど森の宴や奥会津ミュージアム事業に関わる方を中心としたコミュニティ内における認知が主であり、地域住民に浸透しているとはいえない状況であると考えます。

【仮説、ターゲット】

まずは地域内の行政職員及び一般住民における本協議会の認知度を高めることがひいては本協会が実施する事業効果を高め、奥会津ブランド意識の醸成に繋がるものと考えます。

また、これに併せ本協議会事業の一体的な事業展開をすることで、相乗的な事業効果の上昇が見込めることから、各事業の統括を行う事業を新たに設ける必要があると考えます。

【戦略】

上記仮説の実証のため、各町村の広報と連携をとり、各町村及び本協議会の双方向の情報共有を図ります。

また、本協議会事業の統括事業を新設し、一体的な事業展開へと結びつけます。

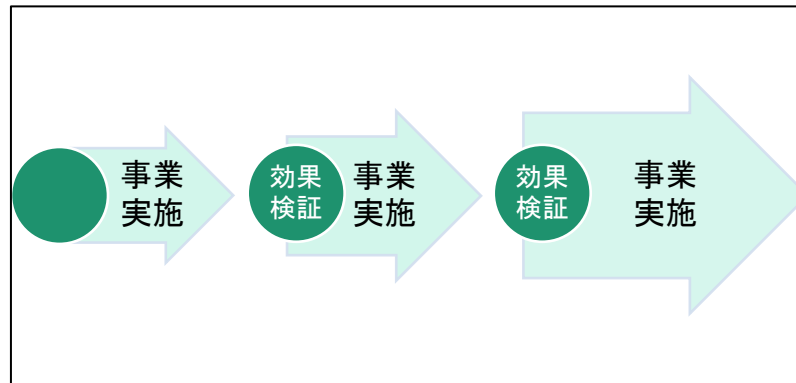
【事業内容】

只見線や会津線、尾瀬国立公園や越後三山只見国定公園を始めとしたニーズが高い奥会津地域の観光情報に加え、本協議会や各町村の様々な取り組みを紹介する広域版広報紙を定期的に発行することで、協議会事業に関する認知度・理解度を高め、本協議会事業の効果的な展開に繋がります。

なお、奥会津全体の地域振興を図る上で必須となるのが、一体的な事業展開です。これを実現させるため、本事業に統括機能を持たせ、各事業間の連携調整を目的としたコーディネートをを行います。具体的には、年間にわたって事業全体を俯瞰するコーディネーターを立て、各種事業の推進に加わってもらい、適宜助言をもらうことにより効果的かつ一体的な奥

会津のブランド発信を図ります。

また、効果的な事業展開が出来ているか確認するため、年度末に事業効果検証を行い、その結果を次年度の事業展開に繋げ、事業効果を高めます。



適切な事業効果検証により事業効果を高めていく。

【検証方法】

下記のK P I をもとに事業評価を行います。

- ・行政、一般住民向け調査における協議会事業の認知度 70%

(3) 地域内外との連携・交流の促進事業

【現状把握】

豊かな自然に寄り添う暮らしを営む奥会津地域には、その自然に基づく文化や歴史を中心とした地域資源が豊富に存在しており、奥会津地域ならではの地域資源を活用できる担い手を育成していくことで、地域内外の人々の交流や、地域経済の循環、関係人口の創出を図っていく必要があると考えます。一方で、本事業を3年継続してきた中ではありますが、まだまだ関わっている地域住民は限定的であり地域に浸透したとは言えず、住民が奥会津に眠る地域資源の価値に気づいておらず、これを有効活用できていない状況にあると言えます。結果として地域外の人々に奥会津の魅力を十分に伝える機会や場所が不足している状況はまだ続いているものと考えます。

【仮説、ターゲット】

奥会津の地域資源を発掘、活用することで地域の魅力を顕在化させます。これにより地域外の人にとっては奥会津地域を知るきっかけ、地域内の人にとってはこの地域の良さを再認識するきっかけとなります。

【戦略】

総合計画第1期において3年積み上げてきた実績を活かし、また、今後も事業を継続することで民間主体の運営体制強化に繋がります。これにより徐々に地域外コンサルに頼る割合を減らし、総合計画第2期中に奥会津の人財だけで本事業運営をこなす形を目指します。

【事業内容】

奥会津地域ならではの自然環境やその自然に基づく歴史・文化などの地域資源を活用し、地域内外の人へ発信できる取組み「奥会津体験博覧会せど森の宴」を開催します。また、これと同時に運営体制の強化を目指し、単なる委託契約ではなく実行委員会を組織します。事業継続する中で意欲のあるプレイヤーとなり得る方々を実行委員会に誘い、運営から関わってもらう人を増やすことで、地域内で地域資源を活用し発信する担い手の発掘・育成できる体制を整えます。これにより、単なる行政主催のイベントではなく、地域住民ひとりひとりが主役となった地域づくりに繋がっていくことを目指します。

【検証方法】

下記のK P Iをもとに事業評価を行います。

- ・ 本事業への参加者数

5 0 0 名

(4) グローカルな人財の育成事業

【現状把握】

奥会津地域の未来を担う若者達の流出に歯止めをかけ、関係人口の増加を促進していくためには、奥会津で自分らしく生活し、イキイキと暮らしている方々の記事や動画を主に地域内の人々に発信していくことは効果的な取り組みであると考えます。ただし、人口減少や少子高齢化が進む奥会津地域においては、地域で活躍する人財の確保が重要であります。地域内に仕事がないと考え、地域外へ出ていく者が多い現状があると思われます。

また、効果的な地域づくりを進めるためには、アイデアを認め合い、想いを共有する複数の地域住民が主体的かつ一体的に活動を起こすことが必要であると考えますが、町村の垣根を越えたものはもちろん、町村内ですら少ない人口の割に若者同士が繋がっていない現状が見受けられます。

【仮説、ターゲット】

これから大人になる若者達に「奥会津で生きる」という選択肢を提供するため、地域内の小学生から高校生対象の事業展開を行います。

【戦略】

奥会津地域で自分らしくイキイキと暮らしている皆さんの活動や生活を知ること、奥会津での暮らしに関心を持つ人々を増加させるため、総合計画第1期に取り組んだロールモデルインタビュー動画の活用に取り組みます。

また、多様な人財が交流することで新たな連携が創出されることを目指し、地域の若者が集い一緒に未来について考える機会を設け、交流促進を図ります。

【事業内容】

奥会津で将来にわたり活躍していく人財を創出するため、以下の3つの事業を中心に事業展開する。

①ロールモデルインタビュー・WEBでの発信

奥会津で自分らしく生活している方々（ロールモデル）取材し、奥会津の魅力や奥会津ならではの活躍の場があることを地域内外へ発信します。

②キャリア構築支援プログラム

奥会津地域で活躍するロールモデルとの対話交流を通じて、奥会津地域のことや自分の将来のことについて考えるきっかけを提供します。

③奥会津未来会議

今後の奥会津振興について行政だけでなく、地域住民も交えて地域全体で話し合うことで、地域活性化につながる様々な活動にチャレンジしていく気運醸成を図ります。

【検証方法】

下記のK P I をもとに事業評価を行います。

- | | |
|---------------------------|---------|
| ・おくびと（専用WEB）におけるロールモデル人物数 | 50名 |
| ・インタビュー動画の再生回数 | 45,000回 |
| ・奥会津未来会議参加人数 | 延べ200名 |

(5) 地域イノベーションの推進事業

【現状把握】

これまで農商工連携部会や地域の生産者の連携商品開発等、様々な手法を取ってきましたが、参加事業者が自身の取組に生かせていないことが課題となっていました。そのため、地域の事業者の主体性を引き出し、地域の経済発展につながるような売れる商品づくりを行うとともに、効果的な販売が出来る事業者同士の連携体制の構築に向けた検討が必要であると考えます。実際に、これまでに行った行政主体の様々な取組はあまり事業効果が高くなく、単年度毎にほぼリセットされていた傾向がありました。

また、総合計画第1期中は、新型コロナウイルスの影響により催事が開催しにくくなったことが多くありました。

【仮説、ターゲット】

効果的に事業展開するためには、これまでのような行政主体での事業立案ではなく、事業の検討段階から奥会津地域内のやる気のある事業者達の本音の意見を聞きながら、事業の立案、展開、見直しをしていく必要があると考えます。

【戦略】

やる気のある事業者の掘り起こしを行い、年間通して地域経済の活性化に向けた協議を継続することで、効果的な事業の立案に繋がります。

また、今後何が起こるかわからない社会情勢の中でも、柔軟に対応しながら経済活動を止めない姿勢を持つために、例えば広域的なオンライン販売WEBサイトの構築など、多くの販売手段を確保しておく必要があると考えます。

【事業内容】

令和4年度に実施した奥会津地域の事業者間の連携協議の結果を踏まえ、総合計画第2期中に奥会津の地域特性を踏まえた民間主体の事業者連携組織体、もしくは事業連携の在り方の構築を目指し、協議を継続します。

また、地域内でやる気のある事業者の掘り起こしを行い、上記の協議の場において地域の実情を捉えた本音を引き出し、効果的な事業展開へ繋げることを目指します。

【検証方法】

下記のK P I をもとに事業評価を行います。

- ・地域産品販売連携体制、事業連携へ意欲を示す事業者数 10社

(6) 地域づくりとしての広域観光の推進事業

【現状把握】

奥会津地域での観光周遊性の向上や滞在期間の長期化、観光案内機能の強化を図るためには、単独町村での取り組みに加え地域内の観光事業者が連携し、一体的な取り組みが必要である一方で、奥会津地域の行政・観光関係者が一緒になって広域観光連携について話し合う場を設け検討を進めているが、奥会津地域全体とした観光誘客を図るための連携が十分とは言えない状況にあると考えます。

【仮説、ターゲット】

各町村の観光協会は法人格を有しているものの、自治体からの委託事業や補助金で成り立っているところが多く、自主事業や広域連携事業に手が出しにくいという状況にあると考えます。

【戦略】

観光客は町村単位ではなく、奥会津地域を一体として周遊することから、観光は特に町村間の連携が必要であると考えます。各観光協会が既存の体制で取り組みにくい部分を本協議会が繋ぐことで、奥会津地域全体における一体的な取り組みを実施していく必要があると考えます。

【事業内容】

奥会津地域における町村間または民間と行政の観光分野での連携を図るため、連携会議の開催や広域連携について先進事例を学ぶ機会を設け、広域連携体制構築に取り組みます。

会議においては、只見線の全線再開、博士峠バイパス開通などの交通インフラ整備や国内外での観光動向の変化を踏まえ、新たな観光広域連携について地域内の観光関係者を中心に検討していくとともに、只見線や会津線を活用した事業を実施し、連携体制の在り方を示す広域観光ビジョンを策定します。

【検証方法】

下記のK P Iをもとに事業評価を行います。

- ・各町村の観光入込客数 総合計画第1期と比較して130%
- ・広域観光ビジョンの策定

(7) 二次交通体系の拡充事業

【現状把握】

地域内外の連携や交流機会の創出、時代や環境にあった二次交通体系を維持するためには、環境の変化や移動ニーズを捉えた検討体制の構築が必要だと考えます。一方で、各町村において二次交通事業を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり利用実績は減少傾向にあり、減少傾向が続けば費用対効果の観点から便数の減少やそれに伴うさらなる利用減が懸念される状況にあると思われます。

【仮説、ターゲット】

奥会津地域に暮らす人々の多くが自家用車所有者ですが、高齢化の進行が顕著であり、今後は移動したくてもできない状況に陥る高齢者が多く発生する可能性があると考えます。

また、観光客も大半が自家用車で奥会津地域にお越しになりますが、令和4年10月1日から全線再開したJR只見線、紅葉時期の会津鉄道のように、奥会津は鉄道需要も多く見込むことが出来る地域でもあると考えます。

【戦略】

カーシェアやレンタカーなど、自家用車以外の選択肢でもあり、鉄道を降りた先の移動手段ともなり得る交通手段の実証実験に取り組み、奥会津の地域特性に合わせた二次交通体系の整備、拡充を目指します。

【事業内容】

これまでに実施した各調査や交通関係者との協議を踏まえ、実証事業を実施します。また、変化し続ける社会情勢や環境に対応するため、奥会津地域内の交通関係者による検討会議を継続的に行います。

これらの結果を踏まえ、総合計画第3期以降の二次交通体系拡充に向け、地域住民及び来訪者にとって必要な公共交通の在り方を検討し、奥会津の地域特性を踏まえた二次交通体系拡充計画を策定します。

【検証方法】

下記のKPIをもとに事業評価を行います。

- ・ 実証事業の利用者数 5,000人
- ・ 二次交通体系拡充計画の策定

